

普及活動情勢報告（令和4年6月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

高知県産ナスをPRしよう ～JA高知県消費拡大連絡協議会芸西支部総会～



5月25日、JA高知県消費拡大連絡協議会芸西支部総会がJA芸西支所で開催され、ナス生産者やJA職員ら12人が参加しました。

農業改良普及課は、高知県産ナスの味に関する基礎資料作りとして、第1回官能試験（令和3年12月）の結果において、高知県産ナス5品種のうち4品種は、県外産1品種と比較して、同等～高い評価であったことを報告しました。

生産者からは「ナス本来の味を確認するために生でも試食もしたが、消費者は加熱調理をして食べることが多いので、加熱調理の結果をPRすべき。」といったPR方法について意見がありました。

今後は第2回官能試験（令和4年5月）と合わせて結果を取りまとめ、消費者向けのPR資料として活用する予定です。

みんなで害虫“ハスモンヨトウ”をつかまえるぞ！

～芸西地区の青年農業士が小学校で出前授業～



5月27日、青年農業士会芸西地区と農業改良普及課は、芸西小学校の3年生26人を対象に出前授業を行いました。

青年農業士2人と農業改良普及課職員が、①芸西村で生産が盛んなナス、ピーマンの生産量、②野菜の害虫とその対策方法、③次回の学習で製作するハスモンヨトウの「フェロモントラップ」について説明を行いました。

児童からは「野菜を作ってくれる農家さんの思いが分かった」、「苦手な野菜だけど、頑張って食べたい」などの声があり、芸西村の農業への関心を深めたようでした。

農業改良普及課は、今後も青年農業士会の活動支援を行っていきます。

人を育て、地域をつなぎ、未来につなぐ 農事組合法人庄毛ファーム総会より



5月27日、庄毛ファームは、JA高知県吉良川支所で令和4年度総会を開催し、19人中、17人の組合員と関係機関が参加しました。

令和4年度の計画では①WC Sの経営面積を2.1haから2.4haに規模拡大、②庄毛ファームの担い手確保、③ほ場整備事業にかかるほ場集積率向上に向けた組合員の募集等の議案が承認されました。

組合員からは労力不足を心配して「ニンジンの収穫など手間がかかる作業はぜひ手伝いたい」という要望がありました。

農業改良普及課室戸支所は、関係機関と連携して庄毛ファームの担い手確保に向けた支援とともに作業効率化のための労働実態調査やドローン防除の導入を支援します。

出荷予測の精度向上に向けて（AIカメラ設置ナス農家10戸巡回）



ナスの出荷予測システムの構築に向け、6月6日、普及課職員と農業技術センター、専門技術員で、AIカメラ設置農家10戸（安芸市、芸西村）のほ場を巡回しました。

人が計測した実数・花数とAIカメラが認識した実数・花数には差があるものの、AIカメラで認識できる開花中の花と約4cm以上に成長した実を毎日自動でカウントすることで、花では約3週間後、実では約7日先の出荷量が予想できることなどがわかりました。

また、生産者からは「花の抜け殻もカウントされており、改善が必要」などの意見が聞かれました。普及課は今後もナスの出荷予測が実用化され、有利販売につなげられるよう取り組みを継続します

新規就農者を訪問 ～安芸市サポートハウス巡回～



6月9日、JAと行政機関等で構成する安芸市担い手支援協議会メンバーで、市が運営するサポートハウスを利用する新規就農者6人を対象にフォローアップ巡回を実施しました。

農業改良普及課は病害虫防除をメインとした栽培指導を行い、生産者からは、「次作に向けて防除を徹底する」という決意や「作業性の向上対策について」等の質問が多く出され、次作に向けた意欲の高さがうかがえました。

農業改良普及課では、新規就農者が初期から安定した営農ができるよう引き続き技術・経営両面で支援していきます。